

ハラコメの
村其の参



ユウキ

朝よ

ほら起きて



おはよう
ユウキ

朝ごはん
できてるわよ



さ
早く着替えて
いらっしやい

一緒に
朝ごはんを
食べましょう？





もぐ

画面越しに母さんの
本音を聞いたあの日から
母さんの帰りが朝食に
間に合わなくなかった

朝ってこんなに
静かだったんだ……



村のしきたりに従って
俺の母さんは「成人の儀」にて
俺の年下の友人・コウタの
性教育を行う「ハラヨメ」に
選ばれた。



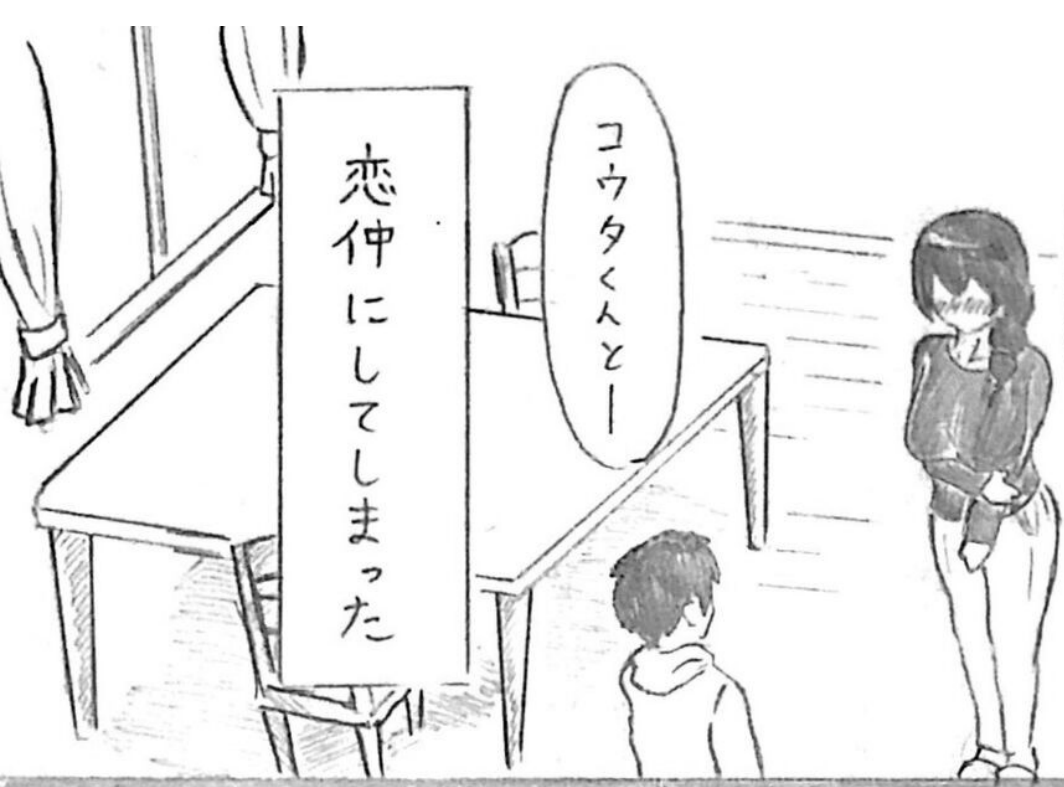
そして
成人の儀が始まってからの
二十と数日の時間は

親子ほどに
年の離れた二人を

あのねコウキ
……お母さんね

コウタくんとー

恋仲にしてみました



コウタとこれからも
付き合っていきたい

コウタが結婚できる
年齢になったら
再婚したい

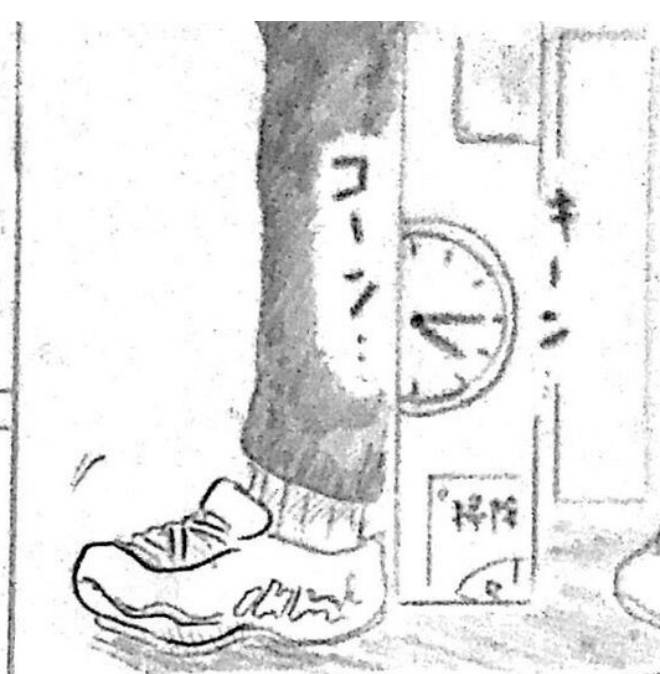


成人の儀の最終日に
あなた
息子の意思を聞かせて
ほしい……と母さんは
一昨日、俺にそう言った

母さんは
最後の一线を越える
判断を俺に委ねた



母さんは……
「母親」と「オシナ」の
狭間に立っていた



それでよ
村長さんとこの
コウタ君

ハラヨメさんと
手え繋糸いで
歩いててさ

ぴく



ああ
あの2人うまくいってる
みてえだな

村に来て早々
ダンナが亡くなって
どうなることかと
思ってたが

コウタ君は
さすがだねえ

いい夫婦に
なりそうだな

早く子供を
産んで

村に貢献して
もらわんとな



少なくとも

あのカラダで
子供作らないのは
それこそ罪だわい



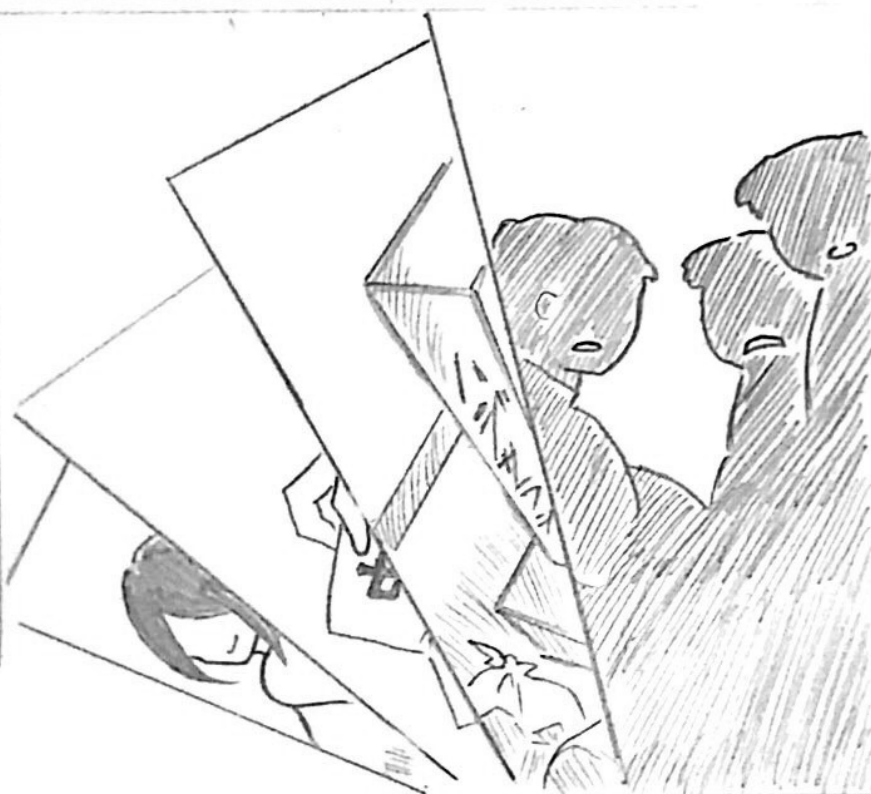
まったくだな！

ハハハッ

この村が望む答えが
どちらなのかは

明白だった

この村はずっと
母さんに子を産ませるのを
諦めていなかったのだ



やり方が、村半分から
コウタを利用する
方法に変わっただけ

ピコッ
ポッ
ポッ



おがえり

ユウキ

コウタとのことを
明かした後も母さんは
俺の前では「母親」でいた

俺のよく知る
俺の……母さんだ

お風呂
入れるわよ

ずっと……
そのままで
いてほしい……

どこにも
行かないでほしい

俺だけの
母さんで——

くんくん

あれ……

料理の途中
だったの？

ええそうよ

火……大丈夫なの？

あっそれなら……

今日は
コウタくんが
手伝ってくれてるから

大丈夫よ

あ

ユウキさん
お邪魔してます



00



そういえば
成人の儀の参加者は
最後の一週間
学校休みだったな...

コウタくん
そっちなっ?

...丸一日
一緒にいたのか...

そうか...

もう既に



一日の中で、俺との時間
よりも、コウタとの
時間の方が長いのか...

今日はシチューよ

夜になったら
温めて食べてね

うん...

「コウタの告白を
断ってほしい」と
言ってしまうたい

行くね

へこ

でも、それは俺の
ワガママでしかない

ガラガラ...

他に理由にできる
ものもない

二人の仲は
合意の上

年齢差もこの村では
気にされない

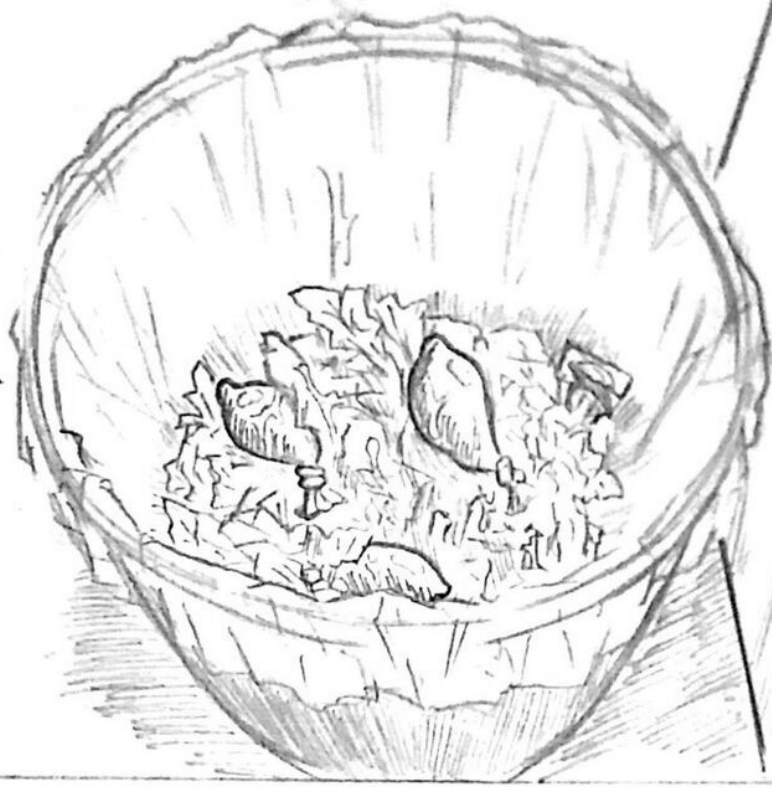


コウタが悪いヤツじゃ
ないことも知っている

周りの女王てが

俺に「大人になれ」と
言っているような気がした





もし美穂さんが
「そういう選択」を
したらそれは

きっと美穂さんの
心がそれを望んだ
結果だと思っ

だから

その時は
美穂さんの気持ちを
尊重してあげて
ほしいの



ほんの少し前まで
私にとってコウタくんは



優しくて親切で
気配り上手で...

だけど、周りに気遣って
自分のしたい事、してほしい
事を口に出さない...
そんな男の子でした

そのコウタくんが
必死な表情で
私に覆い被さって



ひたすら私への
好意をぶつけてきました

言葉で

キスで

抽送で...

心の中で泣いていたあの頃、
私とユウキの味方で
いてくれたコウタくんに



私が少なからず抱いていた
親愛の気持ちは

コウタくんが好きを
ぶつけられるうちに

いっしか

息子よりも歳下の男の子に
向けるにはあまりにも
みっともない感情を
孕むようになりました

その感情は
少しずつ…

私の心の中で
膨れ上がっていきました

身体を重ねた回数は
夫とのそれをすぐに
追い越しました

気付けば

コウタくんへの
恩返しのための行為は
もっと愛してもらう
ためのものになっていました

私ひとりではもう
ブレーキをかけることが
できなくなっていました

七き夫は…

妻の年甲斐もない姿を
祝福してくれるでしょうか？

ユウキ
息子は

母親の恋愛を

祝福してくれるでしょうか？



恋を...

してしまいました

美穂さん
そう言えば
お願いって...？

お母さんは...



ピンポン



今月のイベント

31 最終日

終日



ただいま
ユウキ

ガラガラ

あれ？
今日は早いな



コウタも
一緒じゃないし...



今日は早いね

最終日の一日前は
ユウキと過ごしたいって

コウタくん
お願いしたの

俺と？

一緒にお墓参り
行きたくて…

二人で来るのは
久しぶりだね

そうね…
いつ以来かしら



着いたよ

母さん
荷物持った？

ううん
大丈夫



墓参り…

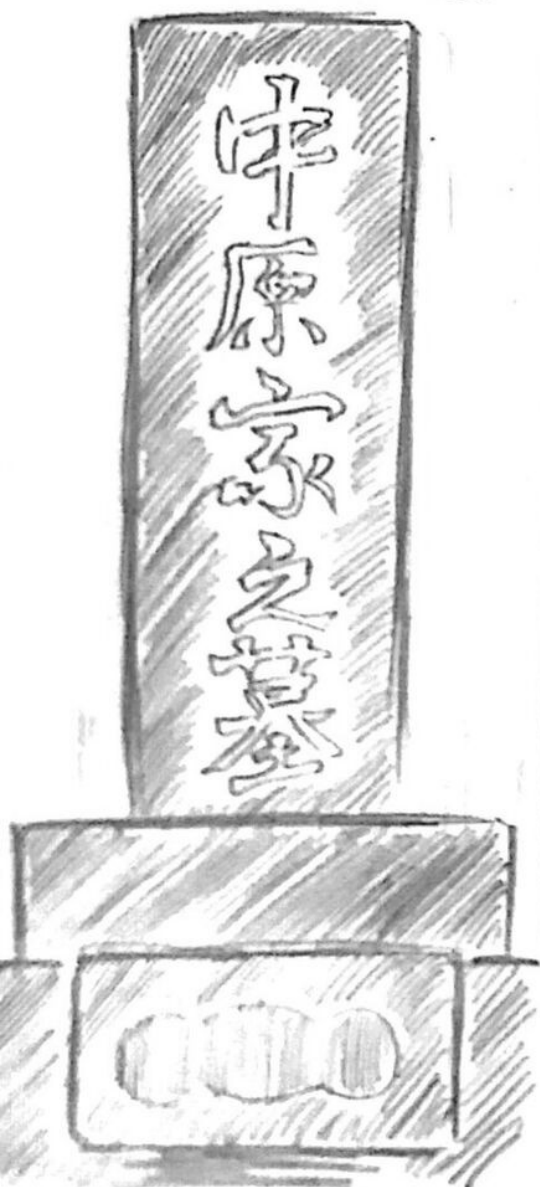
ありがと

ユウキ

色々
思い出すな…



中原家の墓





どうしたの？
こっち見て…



いいいや
何でもないよ…





お父さんと……
お話しできた……？

変なユウキ

……うん

そろそろ……
帰りましょうか

昔と変わらない
母さんの優しい顔

俺の大好きな
母さんのまま

……だからこそ
気付いてしまう

母さんが前よりも…
綺麗になっていることに



前よりも笑顔が
増えたことに



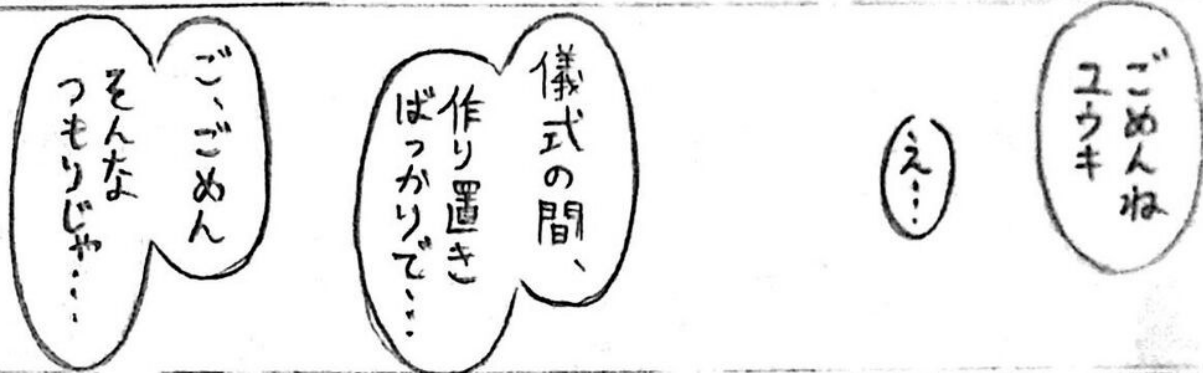
そして、
母さん自身も
気付いていない…

どれがいい
かしら…

じゃがいも

色気の増した
身体に…





今日だって
母さんはきっと……
俺の気持ちもちゃんと
確認したくて

俺と一緒に過ごしたんだ

だったら……

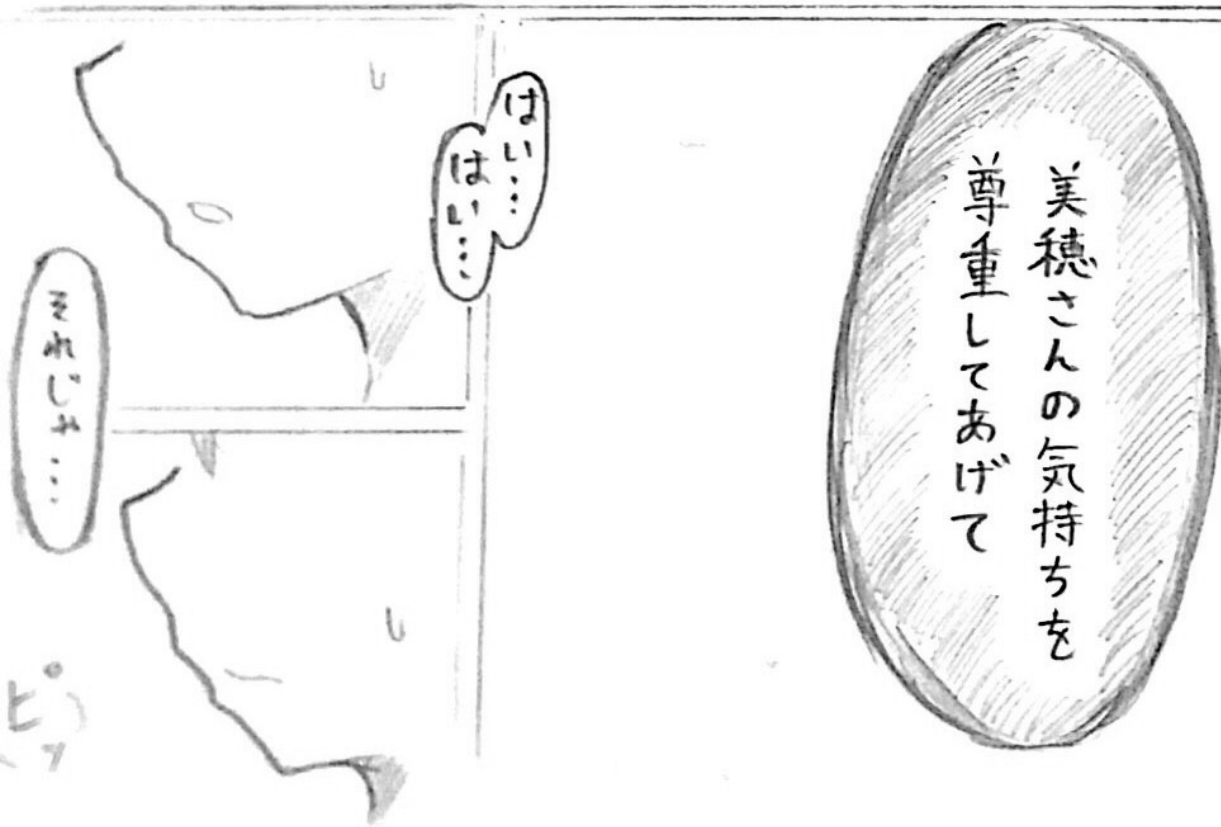
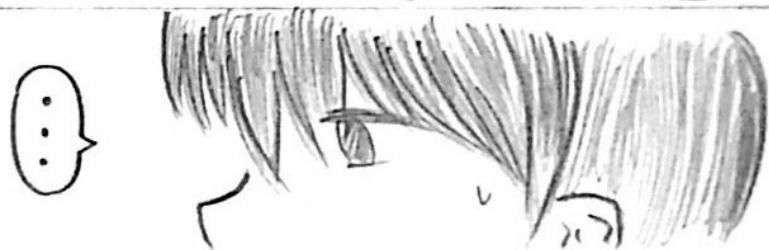
だったら……

俺……さ……

俺の
ママ
の
気持ちも……

「俺だけのママさんで
いてほしい……って

ねえ
ママさん……



ユウキ

明日はコウタくんのお母さんがごはん作ってくれるそうよ

それと...明日はいつもより早く出発するわね

え...

「最後かもしれないから」

コト...

「少しでも長くコウタくんと一緒にいてあげてほしいって」

頼まれちゃって...

うん...

ハカかった...

あ...

それでユウキナツキは何て...?

あ...
いや...

かあ
美穂さんの

気持ち...

...



・・・そうね

コウタくんの
好きになったところ・・・

・・・

母さんは・・・
コウタのどんな所を
好きになったの・・・？



やっぱり・・・
優しい所かしら



たつきさん
あるけれど



この間・・・
コウタくんの
お母さんが教えて
くれたの

コウタくんが
お父さんのお墓を
掃除してくれたあの日

村の有力者達の
集会所があつてね



コウタくんは
そこに飛び込んで…



「これ以上、二人を
いじめないで…って

必死にお願いして
くれたそうなの

額を床につけて

涙を流しながら…



初めて聞いた
エピソードだった

…コウタくんは
本当にいい子よ



私には…
もったいないくらい…

だけど

金や顔の良さ、上っ面の優しさじゃ
決してなびかなかった母さんのべを

動かしてしまうだけの力が
そのエピソードにあることは
すぐに理解できてしまった

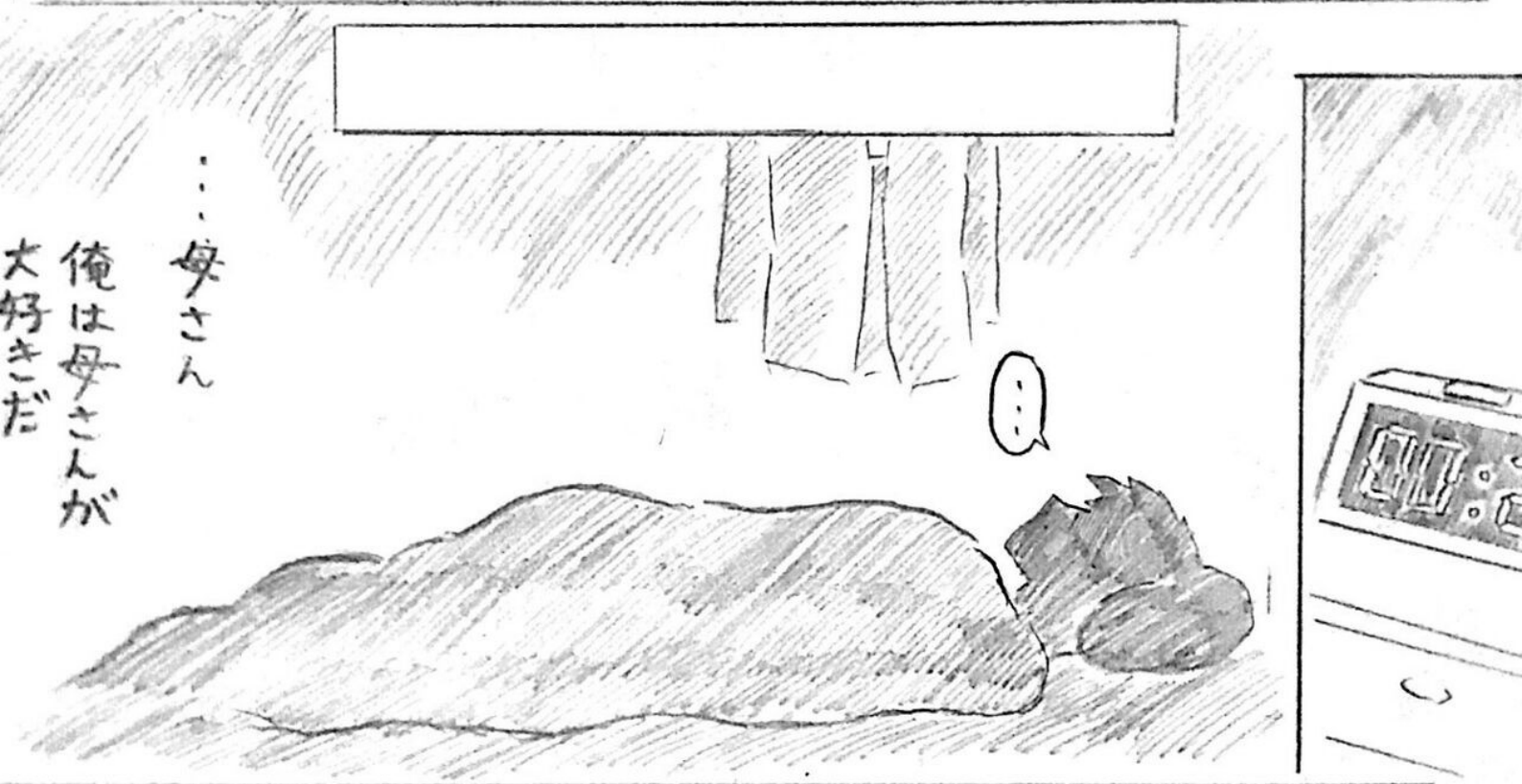
コウタと母さんの
今の状況がこの村に
は組まれたものだったと
しても…



二人の関係自体は
どうしようもなく
「純愛」なのだと
改めて思い知らされた

そっか…

…



…母さん
俺は母さんが
大好きだ

本当は
母さんが…

新しい家庭を
作る所を
見たくないんだ

母さんは
父さんだけの事だ
俺だけの母親で
いてほしかった

母さんは優しくて
家族思いだ



きっと、俺が本心を話せば
母さんは元の日常に
戻ることを選んでくれる

だけど



そんな優しくて
大好きな母さん
だからこそ...

言えないのだ



俺が本心を
言う限り

母さんは幸せに
なれないと

理解してしまったから

だから俺は
最終日の朝……



母さんに

人生で一番大きな
嘘をついた

ノドの奥から
顔を出そうとする
本音を必死に
抑えつけないが



母さんを送り出す
言葉を紡いだ

母さんは
一瞬驚いた顔を
見せた後、



何も言わずに……
今までで一番長い時間
俺を抱きしめてくれた

母さんは今日…

コウタくんのお母さん
お昼前ごろに来てくれる
みたいだから…

分かった

…母さんは
忘れ物ない？

うん…
大丈夫…

……
いってきます

しあわせ
コウタの女になる



……

チラ……



何回時計を
見たのだらうか

母さんが
出発してから

時計を見る度
俺の本心が……
頭の中で囁いて

やめる……

ああ……
クン……

ついさっき
したばかりの決意を
揺さぶってくる

送り出した
ばかりだよ……

11:51

ダメなのに……

母さんの意思を
尊重するって
決めたのに……



「まだ走れば」

間に合うし……と

やめろ……

「本当にこれで」

ダメだ……

良かったのか……と

ちくしょ……

母さん……

母さん……

ワガママな
息子で

たっ

ごめんなさい……

はあ

はあ

びび

びび

ガラ

母さん……





…先にお昼ご飯に
しましうか

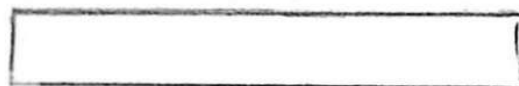
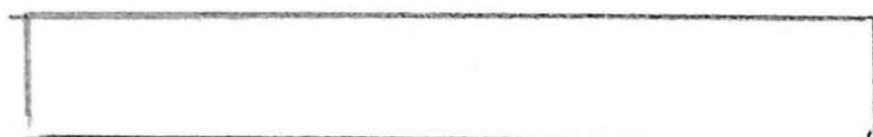
向こうも準備
してゐてしうし

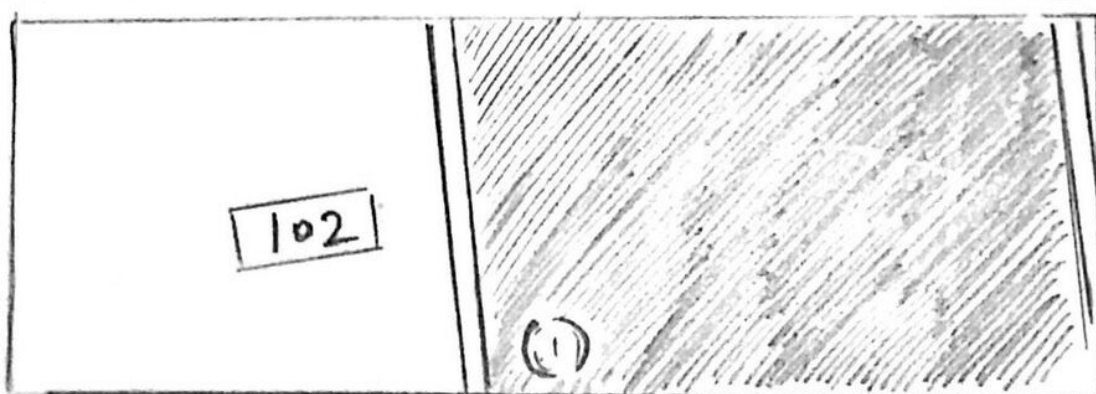
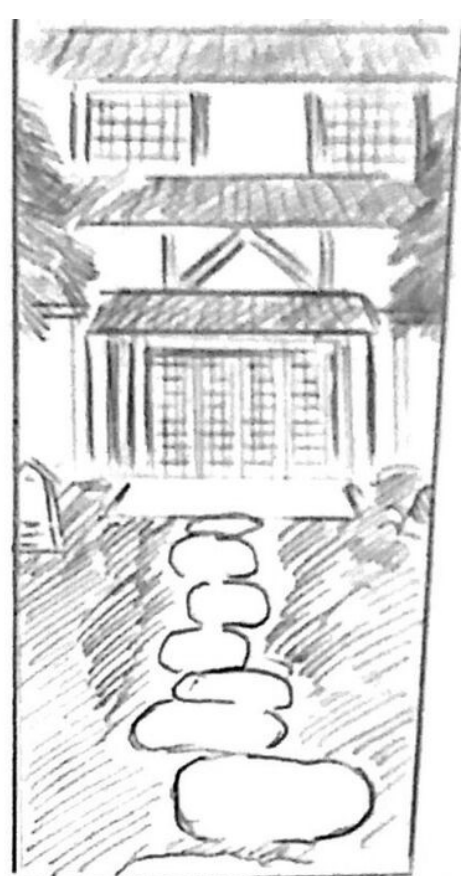
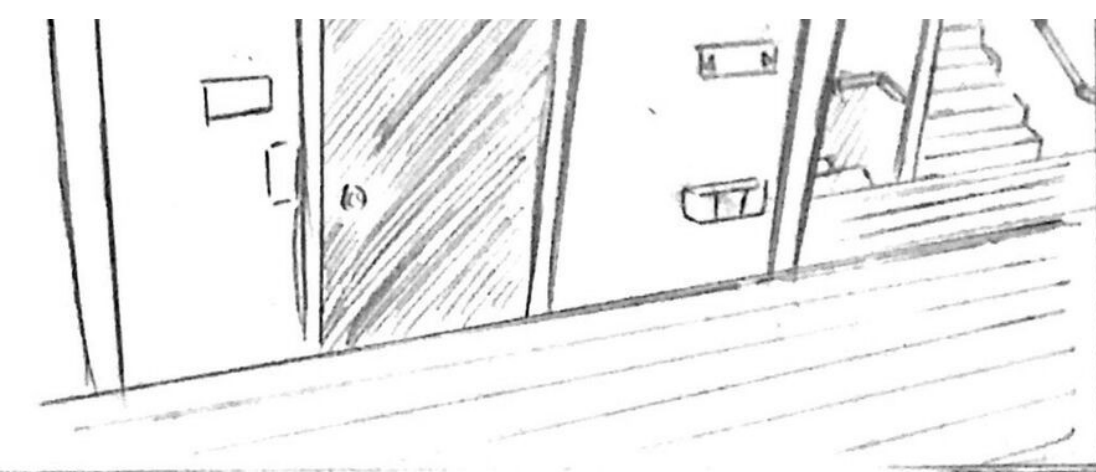
それで



ご飯を食^みべたら
一緒に視聴^みましう

美穂さんが
幸せになるところ





コウタくん…

似合って…
いる…かしら？



ああ…
美穂さん…

素敵です…！

本当に

綺麗…

美穂さん…っ

それを
着てくれたって
ことは…！

たた



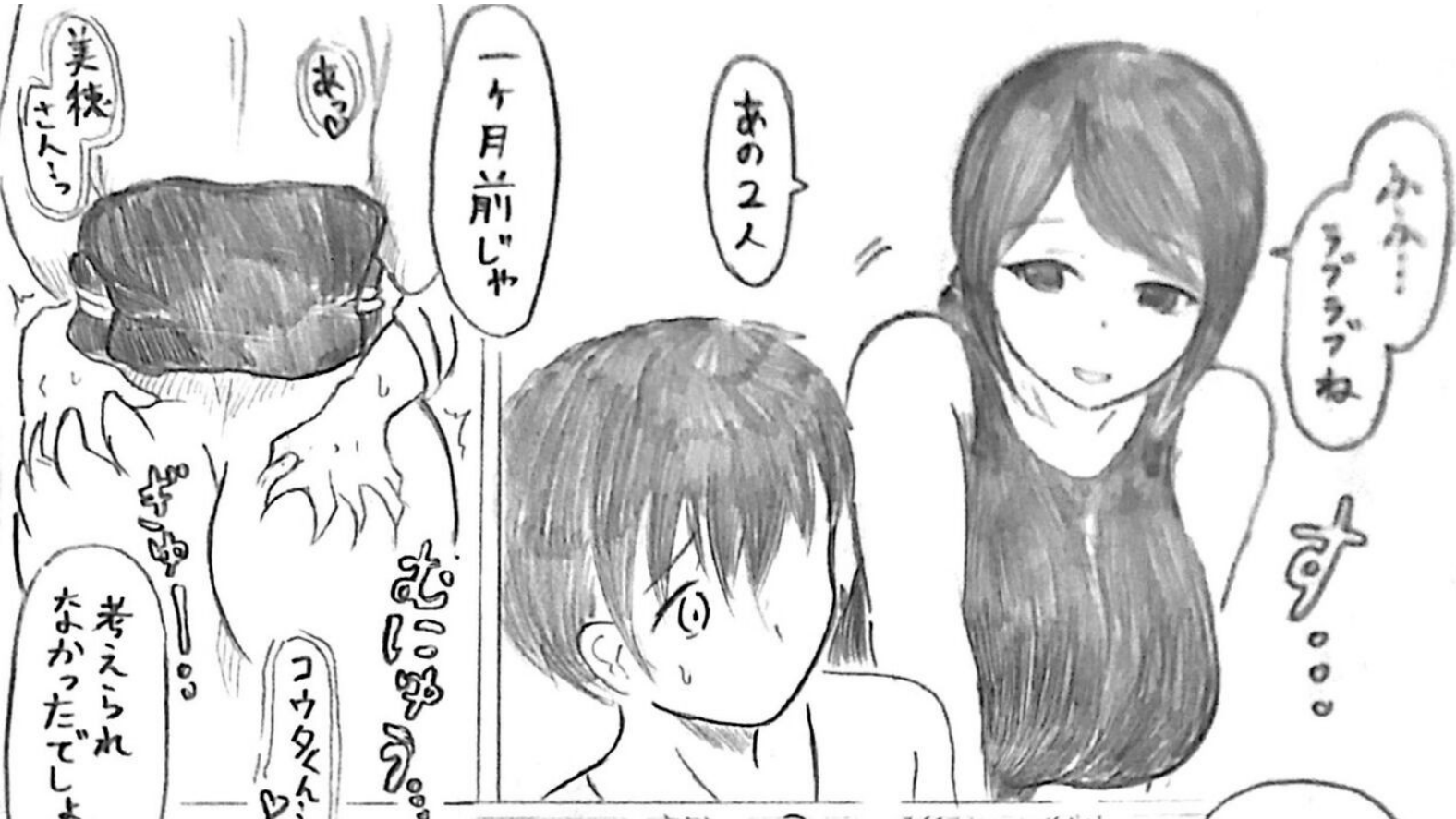
美穂さん…ッ

あ…♡

コウケン…







指輪…



父さんの妻である証が
指から外されていく…



コウタのツガイになる
準備を整えていく…

丁寧に

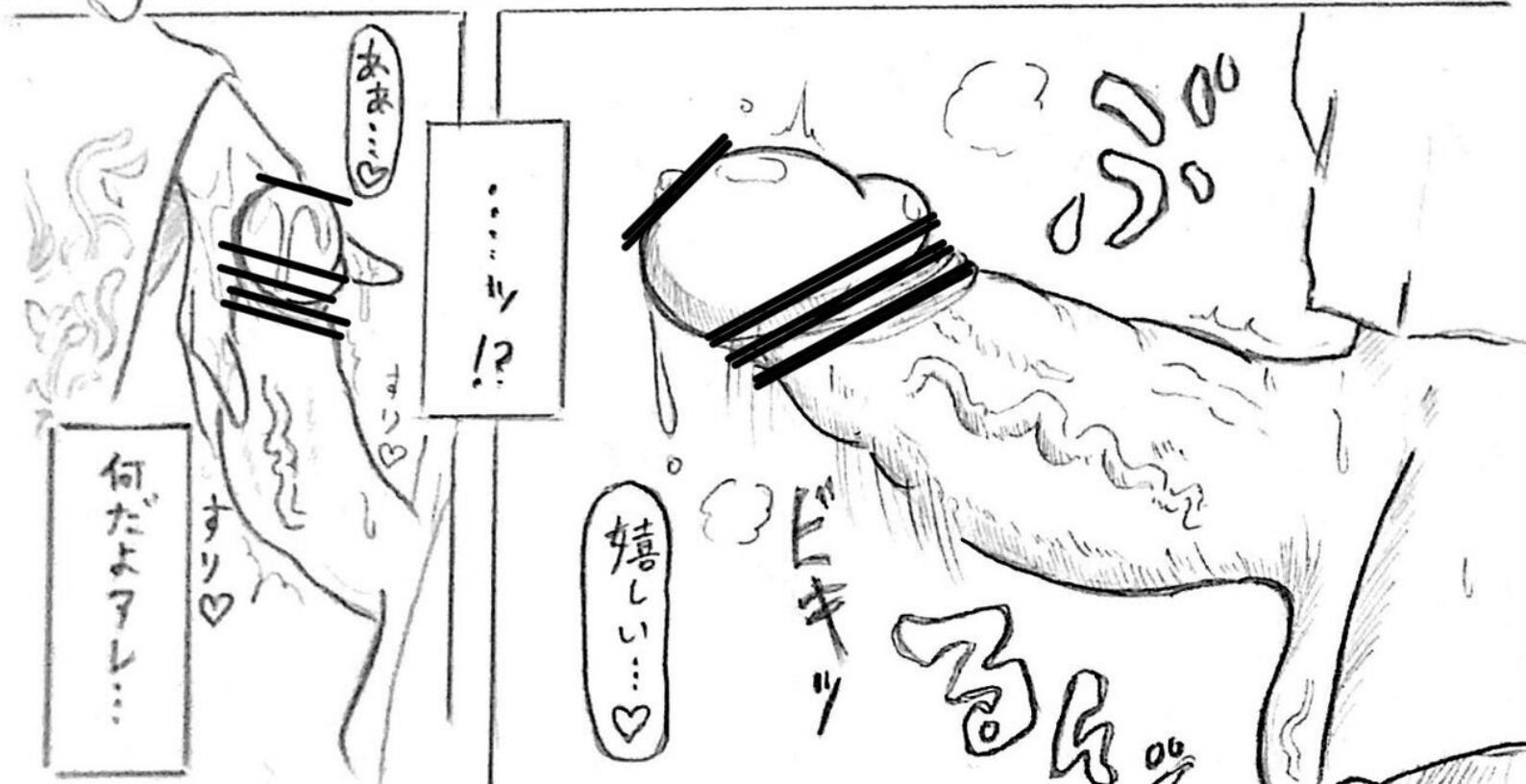
美穂さん…ツ

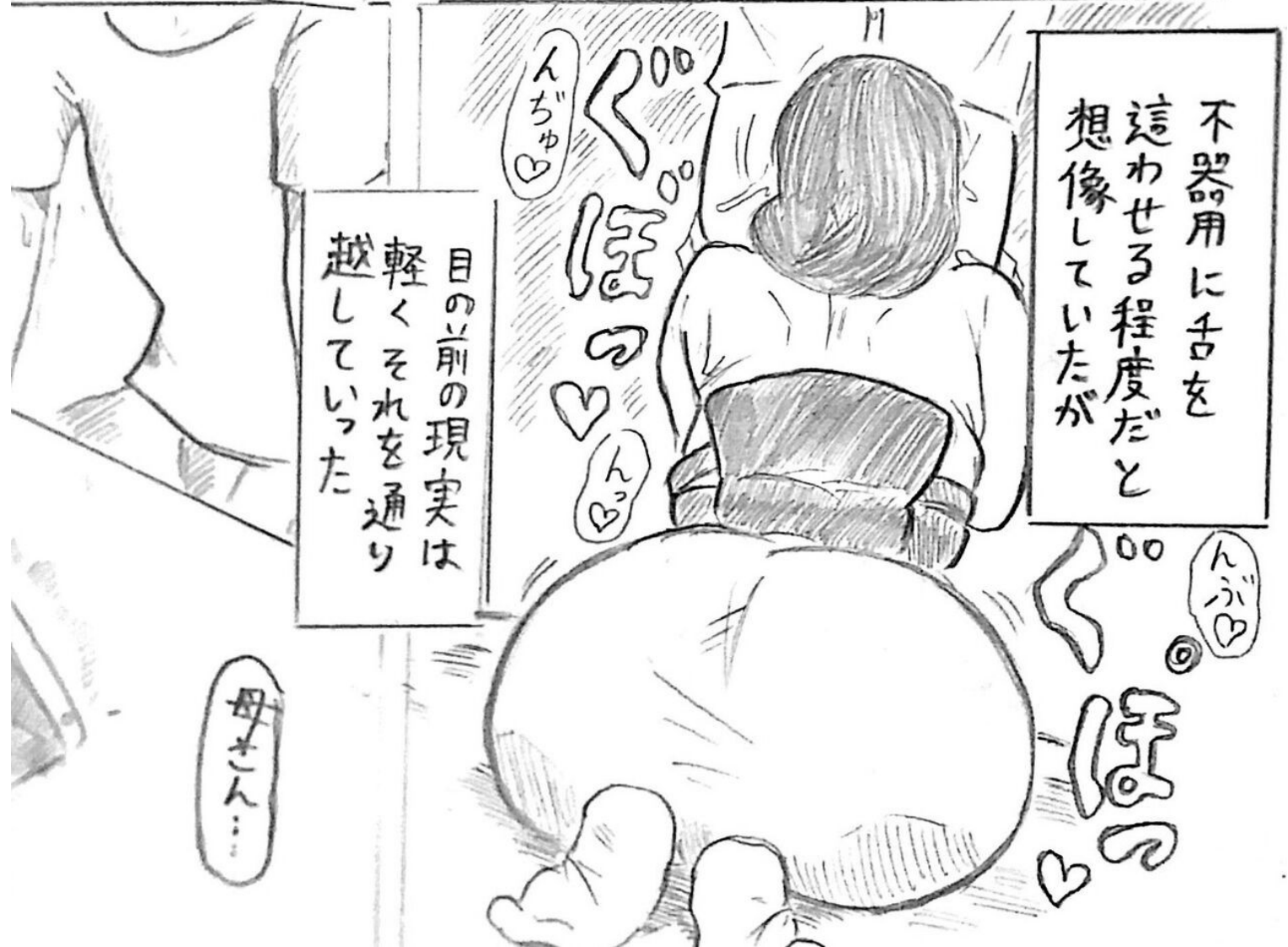
私…

アタタ…



あ…♡







想像よりも。



気持ちいい♡



興奮している...?







それを俺の母親が
俺の友人としている...

ああ♡
コウタさん♡

すごい♡

深い♡

がるん♡
がるん♡

ド
キ

ぐぼ

ぶち

息子には決して見せない...
「メス」を晒してコウタに求愛している

コウタさん...

はっ♡

お願い...

呼び捨てにして...

「美穂」って呼んで...

美穂♡

美穂♡

どちゅ

おお♡
おお♡
おお♡

ス♡

ス♡







ハラヨメは
妊娠中や産後すぐの
女性には選べない

知ってるでしょ？

それは…知ってるけど…

ちら

…♡

コウタさん♡
ラクにして…

お掃除
しますから…

ドゥ♡

それだとハラヨメに
選ばれずに済むのは
子供を産む年だけなんじゃ…

しゅほ♡

そうよ

だから
「コウタが頑張る」のよ

あゐ…♡
天国…

「頑張る」…

それって…

まさか…

毎年…

コウキ君と同じ位に
愛する人が増えて
いくだけ……

ただ

何人産んだってきっと
コウキ君への愛情は
変わらないわ

でも大丈夫



ええ
コウキは
本気よ

ねえ……
コウキ君

来年……
「女の子達の成人の儀……」
参加してみましょ?

ああ……
こうやって

あっ♡
コウキさん♡♡

また……♡



この村は
続いてきたんだ……

コウキ君の心のスキマ……
埋めてくれる娘にきっと
逢えるわよ

コウキさん

愛してる……♡

こうしてこの年の
成人の儀は
終わりを迎え

それから
数日後

参加した「ハラヨメ」
全員の妊娠が発覚した

母さん

忘れ物
ない……？

うん

大丈夫よ

臨月を迎えた母さんは
出産の準備のため
コウタの家に泊まることにな
った

家事は一人でできるから

母さんは自分の事だけ
バ配してよ?

陣痛が始まったうそのまま
コウタの家で産む予定だ

若い雄の種に
射止められ

分かったわ
ありがとうね
ユウキ...

十数年振りに
子を宿し膨らむ
腹をなでる母さんは

ぽ
てっ...♡

行ってくるね

本当に幸せな
顔をしていた



少々くとも

愛さんはムリやりじゃなく
ちゃんと好きになった人と
結ばれることができたし



コウタは
母さんを傷付けたり
しないと分かっているから

「もっと悪い結末に
ならずに済んだ」と

そうバに
言い聞かせられる...

あッ♡

あッ♡



そして
出産当日――

美穂……ッ
もう少しだよ！

はあ
あ

あゝ
……
♡

美穂……♡出てくるよ……

17

お

僕と美穂の最初のきしき♡

フウヤスミ
まろ
ズリ
ズリ



無事
生まれたわ

ホギヤッ

オヤヤッ



そっか
よかった

おめでとうって
伝えておいて

分かったわ

それとー



一緒に伝えておいて

「俺もがんばるから」って

…未帆ねえ
本当に行かなきゃ
いけないの…?

うん…
村のしきたりだから
仕方ないよ…

でも大丈夫

村長さん達に

たまで
たまで

ちゃんと言って
あるから

リョウタが…

っかあ…

恋人が悲しむことは
したくないって

恋人…

だから待ってて

きつと何事もなく

元の日常に戻れるから…

うん…

ちゅ♡

避妊してもらえるように
話はつけておいたし…

それじゃあ…

行ってくるね…

きつと大丈夫…

あとは……



わさ……

成人の儀の相手が
優しい人なら
いいんだけど……

中原勇氣さんって
どんな人なのかな……

K県M村

ここは
昔の風習が今も根付く

今もなお

悲劇と情愛が
連鎖し続けている